

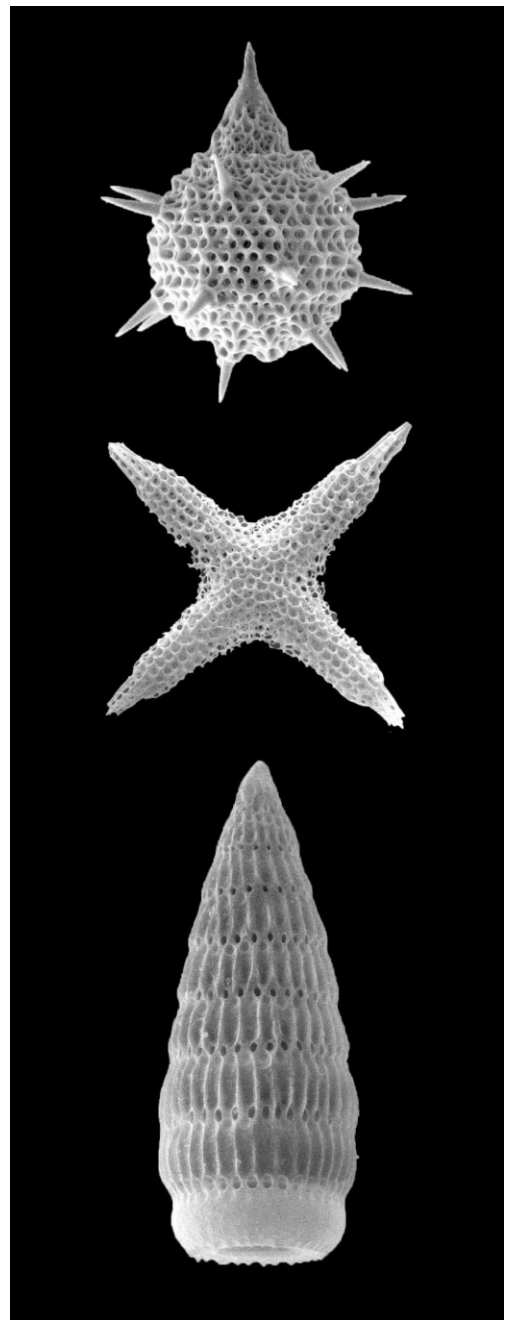
ほうさんちゅう
放散虫 ちい 小さな形の玉手箱

ほうさんちゅう うみ ただよ せいかつ み
放散虫は海に漂って生活する1mmにも満たない
ちい い もの おくねんじょうまえ あらわ げんざい
小さな生き物です。5億年以上前に現れ、現在の海
にもたくさんの種類がすんでいます。多くの種類は
にさんかけいそ しゅせいぶん おな ぶつしつ
二酸化珪素というガラスの主成分と同じ物質ででき
た殻を持ち、仮足と呼ばれる触手のような軟体部を
すきま そと
殻の隙間から外にのびします。

ガラス質の殻は死後も腐らず残るので、海の底には放散虫の殻が大量に降り積もります。化石としてもよく見つかるため、大昔の海の様子を探る重要な手掛かりとなっています。化石の放散虫はこれまでに1万以上の種が知られていますが、すべてが殻の形から区別されているので、殻の形も1万種類以上あることとなります！しかし、どうしてこの多様な形が生まれたのか、その理由はまだよくわかっていません。

みぎ しゃしん きょうりゅう はくあき
右の写真は恐竜の生きていた白亜紀のはじめ
(約1億4千万年前)の放散虫の化石です。マリアナ
かいこう さいしゅ いし
海溝から採取された石の中から見つかったもので、
おな なか
同じ石の中からは400種以上の放散虫が見つかって
います。どれも幾何学的で美しく、まるで小さなガ
ラス細工か空に瞬く星のように見えます。

放散虫の多様な形に魅せられた研究者も多く、19世紀半ばから20世紀初頭に活躍したドイツの進化学者エルンスト・ヘッケルもそのひとり。ヘッケルは放散虫を顕微鏡で観察してたくさんのスケッチを残し、後の時代の建築や芸術にも影響を与えました。そのヘッケルが愛用していた顕微鏡のメーカーはヘッケルの住むドイツのイエナにあり、世界で最初にプラネタリウムを開発したことで知られます。そして、その投影に使われたドームの構造も放散虫の殻がヒントになっていると言われています。天空を映し出す大きなドームが、目に見えないほど小さな生き物から生まれたなんて面白いですね。(吉岡 翼)



やく おく せんまんねんまえ ほうさんちゅう かせき
約1億4千万年前の放散虫の化石。
がそうていきょう まつおか あつし にいがただいがく
画像提供：松岡 篤（新潟大学）

こんげつ かがく のギモン：ガラスでできた殻や骨をもつ生き物にはどんなものがある？
(答えは当館ホームページを見てください)